

製品名: サイクリン E2 (リン酸化 Thr392) ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab04527

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	CCNE2
別名	CCNE2; G1/S-specific cyclin-E2
遺伝子 ID	9134.0
SwissProt ID	O96020
免疫原	抗血清は、Thr392 のリン酸化部位周辺のヒトサイクリン E2 由来の合成ペプチドに対して産生された。アミノ酸範囲: 355-404

背景

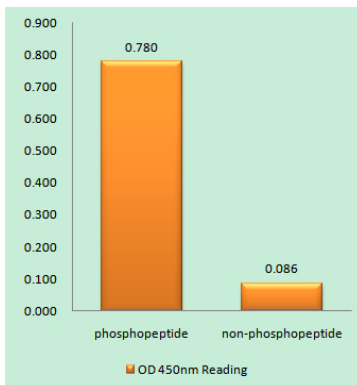
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、高度に保存されたサイクリンファミリーに属し、そのメンバーは細胞周期を通して

タンパク質存在量の劇的な周期性によって特徴付けられる。サイクリンは CDK キナーゼの調節因子として機能する。異なるサイクリンはそれぞれ異なる発現および分解パターンを示し、各有糸分裂イベントの時間的調整に寄与する。このサイクリンは CDK2 と複合体を形成し、その調節サブユニットとして機能する。このサイクリンは CDK 阻害剤の CIP/KIP ファミリーと特異的に相互作用することが示されており、細胞周期の G1/S 遷移に役割を果たす。この遺伝子の発現は G1-S 期にピークに達し、サイクリン E1 とは異なる組織特異性のパターンを示す。腫瘍由来細胞では、この遺伝子の発現レベルが有意に増加していることが観察された。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月],機能:G1 後期および S 期初期の細胞周期の制御に必須です。、誘導:パピローマウイルス腫瘍タンパク質 E6 および E7 によって活性化され、それぞれ p53 および Rb に結合して不活性化します。、PTM:CDK2 によるリン酸化が CDK2 からの放出を誘発し、ユビキチンプロテアソーム経路を介して分解されます。、類似性:サイクリンファミリーに属します。、類似性:サイクリンファミリー、サイクリン E サブファミリーに属します。、サブユニット:CDK2 (in vivo) および CDK3 (in vitro) タンパク質キナーゼと相互作用して、セリン/スレオニンキナーゼホロ酵素複合体を形成します。サイクリンサブユニットは複合体に基質特異性を付与する。、組織特異性: PubMed:9858585 によると、成体精巣、胸腺、脳で最も高い発現を示す。胎盤、脾臓、結腸では低い発現を示す。腫瘍由来細胞では、非形質転換増殖細胞と比較して一貫して高い発現を示す。PubMed:9840927 によると、胸腺、前立腺、脳、骨格筋、腎臓では低い発現を示す。肺では高い発現を示す。PubMed:9840943 によると、精巣、胎盤、胸腺、脳で高い発現を示す。小腸と結腸では、発現レベルは低い。、

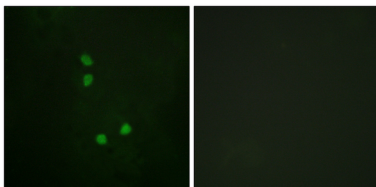
研究分野

Cell_Cycle_G1S;Cell_Cycle_G2M_DNA;卵母細胞減数分裂;p53;がんにおける経路;前立腺がん;小細胞肺がん;

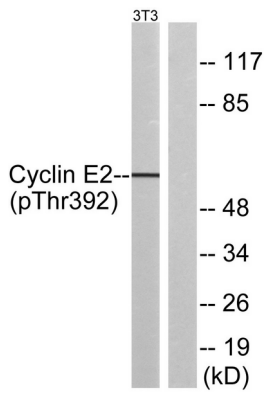
画像データ



サイクリン E2 (リン酸化 Thr392) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



サイクリン E2 (リン酸化 Thr392) 抗体を用いた NIH/3T3 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



サイクリン E2 (リン酸化 Thr392) 抗体のウェスタンブロット解析。右レーンにはサイクリン E2 (リン酸化 Thr392) ペプチドでブロッキングされている。